

賽は投げられた イタリア

歴史がぎっしりと詰まった世界に比類のない街それは“永遠の都ローマ”である。ローマ市内を彷徨していると2千年前の古代遺跡が忽然と現れ、まるで異次元の世界をさ迷い歩いているような心地がする。

長い年月を越えて、いにしえを今に伝えてくれる石の文化は、木の文化圏に育った人間には想像もできない歴史遺産を目の当たりにさせてくれる。

ローマの中心は7つの丘の一つカピトリーノである。ここには2千年前の古代ローマの公文書館(=タブラリウム)が建っていて、現代に引き継がれ今もローマ市庁舎として使われている。

市庁舎の裏手には、古代ローマの政治経済社会の中心であった広大な公共広場(フォロロマーノ)が広がり、そこに点在する神殿や元老院などの古代遺跡群を目にすると誰もが度肝を抜かれる。

イエスキリストの誕生は紀元前7年であるが、古代ローマの起源は紀元前753年、今から2770年と、気の遠くなるような遙か昔である。



カピトリーノの雌狼

伝承ではローマ建国は雌狼に育てられたロムルスとレムスの双子によるといわれている。

カピトリーニ美術館には幼子が雌狼の乳を飲む青銅製の像がある。ところが乳を飲む双子は出土した雌狼の像に、後世双子を付け加えたものだそうだ。

紀元前450年ローマは共和制時代に入り、ポエニ戦争などを経ながら紀元前60年、経済力で突出したクラッスス、平民に人気のあるカエサル、元老院と不和となったポンペイウスの3人が結託し元老院に対抗し、古代ローマの共和制と相容れない三頭政治を始める。しかしポン

ペイウスはカエサルを妬み、元老院と手を結びカエサルの追い落としを計った。そして紀元前49年元老院は(現フランス・ベルギー・スイス地方=ガリア)の総督として赴任していたカエサルの解任とローマ本国への召還を決した。



軍服姿のカエサルの像

ガイウス・ユリウス・カエサル（ラテン語）＝ジュリアス・シーザー（英語）は、古代ローマ時代の優れた軍人・政治家であるとともに「ガリア戦記」を残すなど優れた文筆家としても知られている歴史に名高い人物である。

カエサルは軍を率いてルビコン川（ガリアと本国の境界にある狭い川であるが、古代ローマ時代このルビコン川を、軍団を率いて越えるものは反逆者とみなされていた）までやってきて軍団に向かって有名な「賽は投げられた」後戻りはできないぞと叫んでローマ市内へ向かい、元老院と宿敵ポンペイウスと争い内戦となったがこれを制圧してポンペイウスを追い落とした。

カエサルは紀元前48年執政官に選出される。カエサルはギリシャさらにエジプトへ逃れたポンペイウスを追って、アレキサンドリアにやってくるが既にポンペイウスは殺害されていた。

アレキサンドリアでは絶世の美女といわれているクレオパトラ7世と出会い親密となり一緒に過ごした。

カエサルは紀元前47年ゼラ（現トルコ黒海地方）の戦いに勝ち、勝利をローマに知らせた文面が、短文ながら有名な「来た、見た、勝った」である。

カエサルは紀元前46年ローマに帰還したが、この時クレオパトラを伴い、彼女との間に生まれたカエサリオンを連れてローマ市民の熱狂する凱旋式に臨んだ。カエサルはユリウス暦の採用、貧民への土地再配分、植民地建設など多くの事績をあげていく。

そして軍司令官、絶対的権力を持つ終身独裁官、執政官、護民官、元老院議長など権力の全てを握り実際上の独裁君主となっていく。

しかしカエサルに権力が集中した独裁は、ブルトゥス等にこれまでのローマの共和制への危機感を抱かせ、遂には暗殺の拳に駆り立てたのである。剣で刺され瀕死のカエサルはブルトゥスを見て「ブルトゥス、お前もか・・・」と云って落命したのである。紀元前44年春3月のことである。